



鏡子娘 中かみ。夕之にいた
かしらべりたり。幸いたし 美しい月を望む
ほろはいいあらわせたか
とれだけ 彼女を美しいと感じたか

女性を、好きだった人を

テレビや映画に誰かに例えて話すことなんてできやしない。

その人の個人的に愛する人を他に誰かに表現することはとても難しい。

小さい頃に、家に飾っていたマリーローランサンの女性の絵画。

今、冷静に考えてみればそれに似ていた彼女。

出会った瞬間に彼女。

これからの愛について思い当たる限り、スケッチブックに書き出し、
自分自身を落ち着かせようと努力してみた。

都会の暗闇の中で街灯に写し出された彼女は、
最初は捉えどころのない不思議な存在であったが、
そのうち自分と同じ感性を持つ仲間だと理解した。

事物が起こす現象よりも、空想や自分自身の魂を信じて直感的に動ける人間だと。
この瞬間に魅かれ合っていたことは後によって知ること。



「^が知らず^か不明に都会のくさめがさ、
女性を^描き出し、^{それ}が(理想)夢の女性と
^思い^持つ^た ^きつ^た ^まと
出^遣う^こと^になる

出遣いの儀

彼女を知り、失うことで遂に自由になった。

これは思い出のイメージ。

決別することで痛みを知り、そのおかげでこれからの人生を考えられる猶予を得た。

愛している時は無我夢中で何もかもが瞬時に消え去るが、

終わったあとはただ時は怠慢に流れ、冷静に何があったのか考えられる。



彼女を失った時、痛みを知り、
遂に自由になった

愛のイメージ